白雲庵に想う

養源寺住職　田邊秀範

白雲庵の法要は、いつ頃始まったのでしょうか？

柏谷の旧家に伝わる「伝説感想録」を見ると、「白雲庵の御本尊仏は弘法大師の真作と伝う。養源寺火災の為、詳細は不明なるも古人の伝説によると、六十年毎に御開帳の大祭を施行致す。寛政時代（西暦1789年～1801年）に開帳したときは、養源寺本堂に於いて行う。」と書かれています。もしそれが真実なら、弘法大師の生きた約１２００年も前に石仏が彫られたということになります。そして、そのような大昔から今日迄、地域の人々による篤い信仰が連綿と続いてきたのです。

法要当日、三十年ぶりに御開帳し、厨子の中の石仏と対面した瞬間、神々しさというようなものではなく、ばったりと古い友人に出会ったときのような嬉しさがこみ上げてきました。後々よく考えてみると、それもそのはず、お盆に檀家様の家へ棚経に行くと仏壇にその石仏の写真が飾ってあるお宅があるのです。何気なしに見ていた写真の石仏が、私の頭の片隅に残っていたのです。きっと、前回の御開帳時に写真に撮り、自宅の仏壇に飾ってお参りしているのでしょう。

しかし、これまでの長い歳月の中で、仏様に手を合わせ熱心に信仰していても、世の中は良いことばかりではなかったことでしょう。

その昔、安政二年（西暦1855年）にはこの地域に天然痘が流行し、子供も多数犠牲になったといいます。

そして、それを機に子供の健康を祈念し、子供相撲が始まったといいます。白雲庵の信仰と共に、子供相撲にも長い歴史があるのです。

白雲庵の法要や子供相撲に限らず、先輩達が築いてきたものを後世に伝えていくのは簡単なことではないと思います。柏谷区は、昔ながらのやり方で多くの伝統行事が生き続けています。それは大変尊いことであり、そんな柏谷を誇りに思います。私も微力ながら、これまで引き継がれてきたものを後世に伝えるお手伝いが出来れば、と思っています。

最後になりますが、三十年中祭にあたりご尽力いただいた関係各位に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

あの頃の柏谷

憩いの場としても利用されていたようです。

左下の写真は、同じ場所から撮影した現在の堤ヶ池です。今では、農業の他に、防火用水としても重要な水源となっています。

（写真は、４組の野田さんからお借りしました。）

昭和30年頃の写真は、上の写真の堤ヶ池です。写真の中央上部に、遥か大昔に病院の建物の看護学校で信士山、その建物の左側に、富士山も見えています。

堤ヶ池は、田農業用水を送る池として明治初期に造られました。当初は小さな堤でしかなかったが、明治末期にかけて拡張を行いました。

子供の頃、泳いだり、魚を獲ったりした話を昔よく聞かされたものです。

子供たちの遊び場でもあり、皆の憩いの場でもあります。

我ら、柏谷区自衛消防隊！

自衛消防隊　１班隊長　野田明彦

柏谷自主防の野田です。「聞いたことがあるけど『自主防』っていったい何？」と思われる方が多いと思います。「自主防災組織」を略して「自主防」と一般に呼ばれていますが、「柏谷自主防」の正式名称は「柏谷区自衛消防隊」と言います。自衛消防隊には２つの班があり、１班が７名、２班が６名、合計１３名の隊員で活動しています。自主防の活動の目的としては、大規模災害などが発生した際の、消防や消防団活動への補助や後方支援、被災した住民への支援や二次災害の防止対策など、予測困難な災害に対し二次的に、また様々な形で災害に備え、対応する事が活動の目的です。ですから日頃から火事場に出動するような事はありませんが、防災訓練や日常点検などを通じ、いつ来てもおかしくない災害に対して準備を行っています。その活動の一環で、毎月第３土曜日の夜に、柏谷コミュニティ会館（1班）と柏谷公園駐車場入口（2班）にて、ポンプの点検及び備品点検を行っています。

地元地域のために何か活動したい、または地元の知り合いが欲しいと思っている人は、手始めに柏谷自主防へ入ってみてはいかがですか。いつでも大歓迎です。現在のメンバーは、年代も幅広く20～50歳（ほぼイケメン）、生まれも育ちも柏谷民という人から最近柏谷に越してきた人まで、仕事も様々で個性豊かなメンバーが集まっています。自分も自主防に入って数年たちますが、年代を超えたつながり（絆）が増え、柏谷の様々な行事があるたび楽しくにぎやかに参加しています。入隊資格は特にありません。興味のある方は、是非自主防へ参加してみて下さい。お問い合わせは柏谷区役員まで声をかけてください。

可搬ポンプの放水を行い点検する隊員

地域防災訓練で浄水装置の説明をする隊員

言い忘れましたが、入隊すると自主防災活動の他に、体育大会の各種団体リレーへの参加やお天王さんの御神輿担ぎなどの重要（？）で楽しい特典も待っています。

日頃から防災の意識を高め、非常持ち出し袋の準備や近所の危険個所を把握して、大規模災害に備えましょう。

体育大会でおなじみ、各種団体リレーでの自衛消防隊のパフォーマンス